

一般社団法人 関西地質調査業協会 創立 60 周年記念事業

「防災市民フォーラム京都 2017」開催報告

一般社団法人関西地質調査業協会が、本年度創立 60 周年を迎えるにあたり記念事業の一環として、「防災市民フォーラム京都 2017」を開催致しました。

1、開催日時：平成 29 年 6 月 10 日（土）13：00～17：00

2、会 場：京都商工会議所三階講堂
場所：京都市中京区烏丸通夷川上ル

3、主 催：一般社団法人関西地質調査業協会京都支部

4、後 援：国土交通省近畿地方整備局
京都府建設交通部
京都市建設局
京都地盤研究会
NHK 京都放送局
京都新聞社
KBS 京都、
J:COM 京都みやびじょん、

5、参加者数：234 名

6、プログラム

- 13:00～13:05 開会挨拶
- 13:05～14:35 基調講演：関西大学特別任命教授 河田 恵昭 先生
演題「京都で起こる身近な災害 ～地震、水害、土砂災害～」
- 14:35～14:45 （休憩・交流タイム）
- 14:45～15:15 地元話題講演 1
京都府建設交通部河川課流域調整担当課長 安田 勝 氏
演題「京都府内の水害について」
- 15:15～15:45 地元話題講演 2
京都市建設局道路防災担当部長 秋山 智則 氏
演題「京都市内における最近の道路災害の状況と対策」
- 15:45～ （休憩・交流タイム）
- 16:00～ パネルディスカッション
テーマ「京都も危ない・・・！ 災害から身を守るには」
- 16:55～ 閉会挨拶



【開会挨拶】 一般社団法人関西地質調査業協会

創立 60 周年記念事業実行委員長 荒木 繁幸 氏



一般社団法人関西地質調査業協会の創立 60 周年記念事業実行委員長である荒木繁幸氏の開会の挨拶で防災市民フォーラム京都 2017 の開幕が告げられた。地質調査業は道路建設や河川改修、ダムやトンネルを建設するときの地盤調査を担当する業種で一般の方々にはなじみの薄い業界かもしれませんが。最近では近畿地方整備局や各地方自治体との間で防災協定を締結し、この協定にもとづき災害発生時の初動調査に同行して災害復旧に貢献している団体であることをご承知頂ければ幸いです。本日は関西大学特任教授の河田恵昭先生より京都で起こる身近な災害について、また京都府様から府内で発生した水害について、京都市様から市内の道路災害について地元での災害事例を話題提供頂き、引き続き市民の代表者を交えたパネルディスカッションが行われます。京都で起こる災害から身を守るための知識や情報を得て役立てて頂きたいとの挨拶がありました。

【基調講演】 基調講演：関西大学特別任命教授 河田 恵昭 先生

演題「京都で起こる身近な災害 ～地震、水害、土砂災害～」



基調講演中の河田恵昭先生



一般市民からの質疑

このフォーラムでは、「京都で起こる身近な災害～地震、洪水、土砂災害～」と題して基調講演を行って頂きました。講演の内容は、地震については京都盆地を囲む花折・西山・黄断層は過去 1200 年間地震を起こしておらず、エネルギーが溜まっていて危険であるとの指摘。洪水については、地球温暖化によりこれまでの降雨特性は激変したと考えなければならず、過去に起こった降雨記録を基準にはいけないとのご指摘がありました。また、豪雨によって鴨川や桂川も将来、必ず溢れる。そのとき京都盆地周辺の丘陵部のみならず、市内の吉田山や宝ヶ池、双ヶ岡周辺、寺社境内の丘陵部でも土砂くずれなどの災害が発生するであろうとのことでした。

河田恵昭先生は、京都大学名誉教授で防災研究所所長を歴任され、現在関西大学特別任命教授、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター長を務められ、東日本大震災復興構想会議委員でもあります。また日本自然災害学会会長や災害情報学会会長を歴任するなど、災害分野における第一人者で、「減災」という言葉を提起し、防災・減災を研究されています。学会賞や功労賞の受賞も多く、内閣府や全国の都道府県、市町村といった自治体の委員・委員長も務めておられます。

【地元話題講演 1】京都府建設交通部河川課流域調整担当課長 安田 勝 氏

演題「京都府内の水害について」



講演中の安田課長
(京都府)

安田課長は、京都府建設交通部河川課で流域調整担当課長を務めておられ、気象予報士でもある立場で「京都府内の水害について」台風の進路や気圧配置から見た雨の降り方等を解説しながら府内で発生した主な河川災害についてご紹介を頂きました。昭和 10 年の鴨川大水害は、梅雨前線による豪雨が原因で市内で多くの河川が氾濫、多くの橋が流失し死者も多数出たとのこと。また、昭和 28 年の南山城水害も前線性豪雨が原因で、死者・行方不明者が 300 名以上の甚大な被害が出ている。最近の京都府下においても平成 24、25、26 年に前線や台風の通過による豪雨災害が発生しており、今後も豪雨による河川氾濫等注意必要であるとの指摘がありました。

【地元話題講演 2】京都市建設局道路防災担当部長 秋山 智則 氏

演題「京都市内における最近の道路災害の状況と対策」



講演中の秋山部長
(京都市)

秋山部長は、現在京都市建設局の土木管理部で道路防災担当部長を務めておられ、「京都市内における最近の道路災害の状況と対策」についてご講演を頂きました。平成 25 年の台風 18 号では道路管理者の立場で道路災害を経験され、その後復旧事業にも携わられました。京都市では豪雨により災害が発生する可能性のある道路のり面の防災対策として、効果的かつ効率的に対策を進めるための「道路のり面維持保全計画」が策定されその取り組みが始まっている。また市民の声を聞き安心、安全の町づくりに取り組む「京のみち 110 番」の開設等もご紹介頂きました。

【パネルディスカッション】テーマ「京都も危ない・・・！ 災害から身を守るには 」

- コーディネーター：河田恵昭氏（関西大学特任教授）
パネリスト：安田 勝氏（京都府建設交通部河川課流域調整担当課長）
秋山智則氏（京都市建設局土木管理部道路防災担当部長）
藤田裕之氏（レジリエント・シティ京都市統括監）
大嶋博規氏（嵯峨自治会連合会常任幹事）
束原 純氏（（一社）関西地質調査業協会防災委員長）
門河良典氏（（一社）関西地質調査業協会京都支部会員代表者）



パネルディスカッション会場風景



大嶋氏 門河氏

【大嶋博規氏】平成25年台風18号において避難所開設などを経験し、実際の避難の難しさを感じた。例えば緊急連絡網の不備や情報の入手方法など。また、小学校が避難所であるため、学校関係者が避難所に到着しなければ備蓄品を持ち出せないという問題もあった。自主防災会においては、早急に避難所開設等に関する体制を整備しなければならないと考える。また、行政側からは住民に対する確実な情報提供のあり方などを検討して頂きたい。



秋山氏 藤田氏

【藤田裕之氏】大嶋氏の台風18号災害の体験談は、私が以前に右京区長であったこともあり身につまされる話でした。レジリエント・シティ京都市統括監として、自然災害をはじめとする様々な事象に対応できるよう尽力していきたい。

【秋山智則部長】避難情報を発信する行政として、住民の適切な避難行動に繋がるよう、ハード整備の推進状況なども踏まえて防災に対する情報を発信できるよう今後も努めていきたい。



安田氏

【安田 勝課長】京都府では、土砂災害警戒区域等の各種災害に対する情報を提供しており、平時の情報として住民の方に活用して頂きたい。また、府民の皆様の安全・安心な生活を支える河川整備や土砂災害対策などのハード整備を推進している。

【束原純防災委員長】本業界は、一般の方の認知度が低いのは否めないが、毎年京都府が実施している防災訓練にも参加し、地盤災害に関する住民への啓蒙活動などを実施している。また、本協会としては、京都府ならびに京都市と防災協定を締結し、災害時の公共施設復旧に関する協力体制を整えている。

【門河良典支部代表】京都支部では過去の大きな災害発生時に各社が社を上げて災害復旧に協力した経験もあり、今後の災害対応にも十分応えていける組織体制にある。



河田先生 東原氏

【河田恵昭先生】住民の方は、洪水や土砂災害などの危険に対し、自分がどのような場所に住んでいるのか予め知っておく必要がある。また、避難情報を他人事と考えてはいけない。いわゆる避難情報の「空振り」により、住民の正常性バイアスが助長されている可能性もあるが「空振り」は悪いことではない。行政は「空振り」となった原因について、気象条件、ハード整備の進展やその効果なども含めて情報発信をもっとすべきである。

関西地質調査業協会においては、防災や災害復旧に関連する地質調査業務に携わっているが、一般住民は知らない方がほとんどと感じる。もっと業界のアピールをすべきと思う。

【閉会挨拶】 一般社団法人関西地質調査業協会 京都支部長 奥田 悟



「防災市民フォーラム」に約 230 名もの多くの市民の方々に参加を頂き有り難うございました。京都でも発生が予想される地震や水害、土砂災害に対し身を守るための何か知識や情報がこのフォーラムで得られましたでしょうか。今日のフォーラム開催が皆様方の防災活動に少しでもお役に立てれば幸いです。主催者を代表しまして本日ご参加頂きました皆様方、そしてご講演を頂いた先生方、パネルディスカッションにご協力を頂いたパネラーの皆様方にお礼を申しあげ閉会の挨拶と致します。ありがとうございました。

【防災パネル展示】

防災市民フォーラム開催会場である商工会会議所 3 階講堂入口に京都府内で発生した土砂災害の写真や浸水被害の写真、京都市周辺の活断層図、災害発生時の協会の対応状況写真等をパネル展示して関西地質調査業協会の活動を紹介致しました。



講堂入口付近の防災パネル展示状況

< パネル展示物 >

- ・平成 16 年台風 23 号京都府内被害写真
- ・平成 23 年台風 12 号災害への対応写真
(関西地質調査業協会の活動状況写真)
- ・平成 25 年台風 18 号 京都府内
浸水被害・土砂災害写真
- ・土砂災害(深層崩壊・がけ崩れ・地すべり)
の被害状況写真
- ・液状化の被害状況写真
- ・京都市周辺の都市圏活断層図

防災市民フォーラム京都 2017 の開催を終えて

一般社団法人関西地質調査業協会の創立 60 周年記念事業として各支部における防災市民フォーラムの開催決定を受け、京都支部では平成 28 年 10 月 7 日に第 1 回支部会議を開き京都での防災市民フォーラムの開催を支部決定し、準備が始まりました。支部が主導で行うフォーラム開催など全く経験が無く、手探り状態でのスタートでした。同年 12 月の第 2 回会議では、フォーラムの具体的構想として基調講演、地元話題講演、パネルディスカッションを行うことを確定し、先ずは会場確保と講演頂く先生の確定に取りかかりました。幸いなことにこの時点で河田恵昭先生の講演協力の内諾が得られていたことが、支部関係者にとって大変心強く、準備にも力が入りました。年が明け 1 月 18 日の第 3 回支部会議で開催案内に使用するちらし・ポスターの構想をまとめ、地元話題提供者として京都府、京都市に対する講演交渉が始まりました。後援名義申請については、京都府、京都市だけでなく京都新聞やNHK京都放送局等報道機関の後援も得られる見通しが立ち、この頃は順調に準備が進んでおりました。

ところがこの準備期間が年度跨ぎに重なったことから京都府や京都市の協力を得てはいたものの、派遣頂く講演者が決まらず、ちらし・ポスターの完成が当初予定より 2 週間程度遅れることになりました。支部内にやや焦りの気配が出始めるなか 4 月 5 日に第 4 回支部会議を開催し、講演者や市民代表との打合せ、会場備品の作成、広報活動等担当者を決め、具体的な準備に取りかかりました。ちらし・ポスターは 4 月 14 日ようやく完成し、支部会員各社の社員の方々にも協力を得て府下全域にフォーラム開催のちらしを配布致しました。広報開始後の 1 ヶ月程度は 70~80 名程度の申し込みで好評とは言えませんでした。締め切り日を超えた 6 月上旬ようやく 200 名近い参加申込者があって開催にこぎ着けることが出来ました。

6 月 10 日に予定通り防災市民フォーラムを開催致しましたところ、30 数名の当日参加者もあって、一般市民を含めた参加者数は 234 名で盛況裏にフォーラムを終えることが出来ました。これもひとえにご協力を頂きました先生方やパネリスト、協会関係者、そしてこの催しを準備当時からいろいろとご指導、ご協力を賜った多くの関係各位に支部役員一同感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成 29 年 6 月 29 日

一般社団法人 関西地質調査業協会 京都支部役員一同